

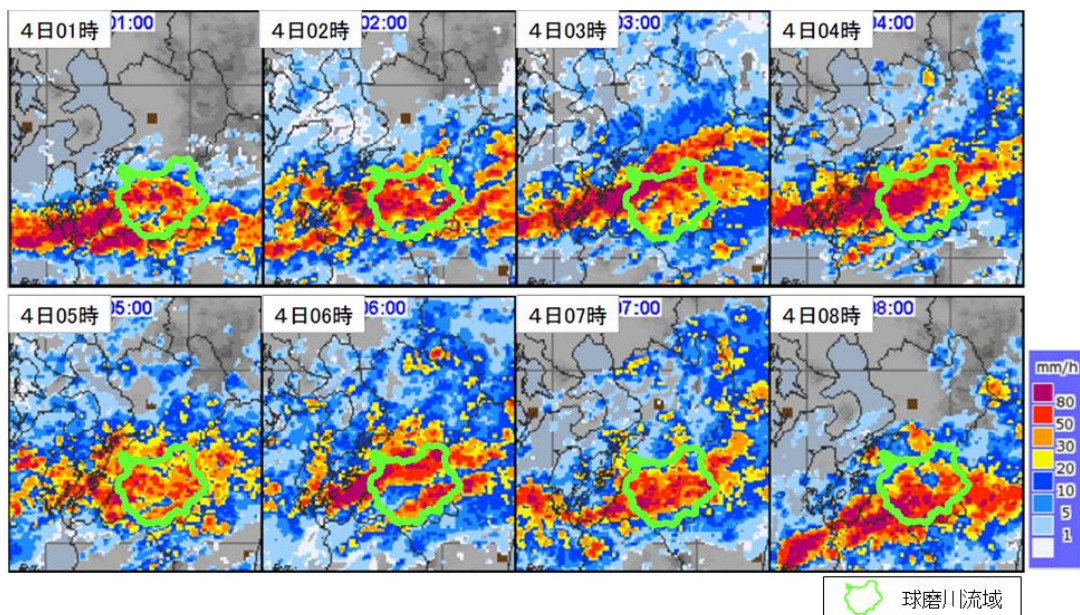
Q3. 令和2年7月豪雨の雨の特徴を教えてください。

- 令和2年7月豪雨時は、7月3日から4日の2日間で7月の平均雨量を観測する大雨となりました。球磨川流域では線状降水帯が形成され、時間雨量30mmを超える激しい雨が、7月4日未明から朝にかけて、約8時間にわたって連続して降り続きました。
- この線状降水帯は、長さ約280kmで13時間停滞しており、2009年以降に九州で発生した線状降水帯としては、規模が最も大きく、継続時間も最長を記録したと気象研究所が発表しています。

表 7月の雨量の平均値と令和2年7月3日0時~4日24時の雨量の比較

雨量観測所	7月平均値	7/3 0時~7/4 24時	
	雨量 (mm)	雨量 (mm)	平年比
人吉 (気)	471.4	420.0	0.89
上 (気)	485.0	466.5	0.96
えびの (気)	798.0	400.0	0.50
水俣 (気)	403.6	513.0	1.27
牛深 (気)	309.7	471.0	1.52

(気象庁HP 各種データ・資料を参考に作成)



※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。 「熊本地方気象台 災害時気象資料」より抜粋及び一部加筆

図 令和2年7月4日1時~8時のレーダー雨量 (線状降水帯の状況)

○ 観測された雨量の分布は、球磨川流域内では中流部が大きくなってはいますが、雨量は球磨川本川の中流部から上流部だけでなく、支川川辺川の観測所においても観測開始以来最大を観測しており、河川整備基本方針（平成19年策定）の計画規模の降雨（人吉上流域 1/80、横石上流域 1/100）を超える雨量（人吉上流域 1/300~1/400、横石上流域 1/800~1/900）となりました。

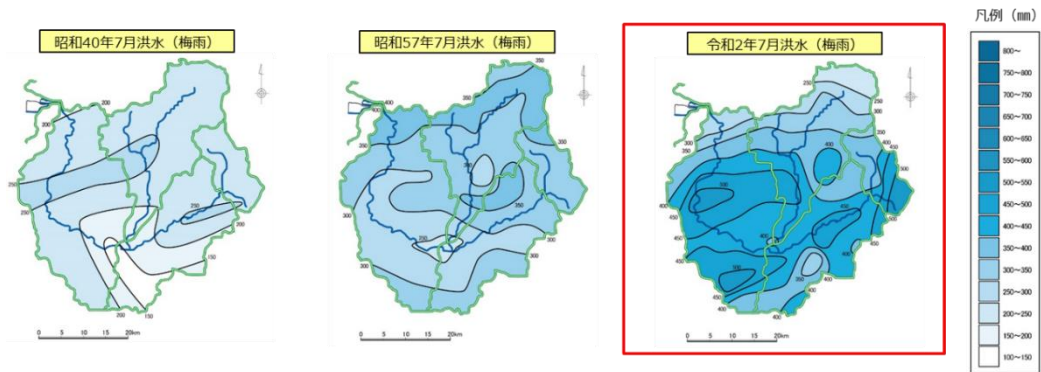


図 令和2年7月洪水と過去の主要洪水の24時間等雨量線図の比較

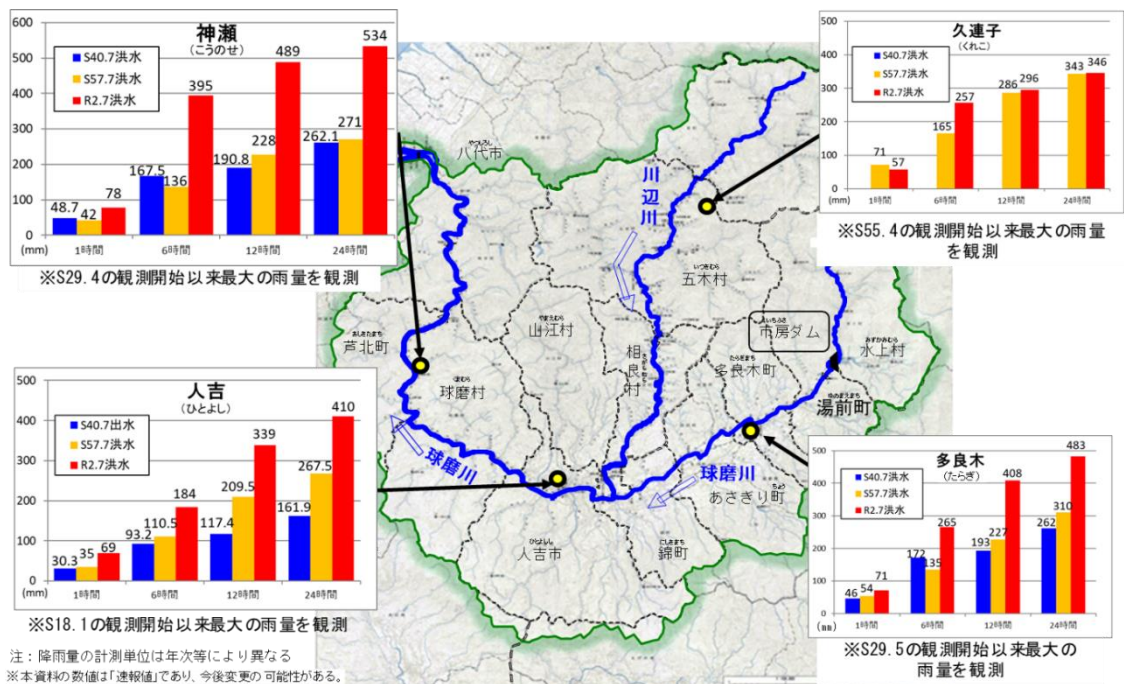


図 令和2年7月洪水と過去の主要洪水における観測所の雨量比較

表 河川整備基本方針（H19策定）の計画降雨量と  
令和2年7月洪水における観測所の12時間雨量との比較 ※雨量は流域平均雨量

流域	H19河川整備基本方針策定		R2.7月豪雨実績	
	計画規模	計画降雨量 (mm/12h)	確率規模	実績雨量 (mm/12h)
人吉上流域	1/80	262	1/300~1/400	322
横石上流域	1/100	261	1/800~1/900	346

※球磨川豪雨検証委員会後に、雨量観測所を追加し「人吉 321⇒322mm/12h」「横石 347⇒346mm/12h」に修正

- 令和2年7月豪雨の雨の概要について確認したい方は[こちら](#)をご覧ください。
  
- なお、令和2年7月豪雨の雨の概要については、国土交通省八代河川国道事務所のホームページ「[第1回令和2年7月球磨川豪雨検証委員会](#)」に掲載しています。